

事業継続の脅威 あらゆる企業が標的

独立行政法人情報処理推進機構（IPA）は8月20日、事業継続を脅かす新たなランサムウェア攻撃について注意喚起を行った。

ランサムウェアとは、パソコンやサーバー上のデータを暗号化して使用不可にし、それらを復旧することと引き換えに身代金を支払うように促す脅迫メッセージを表示するウイルスの総称。これまで、ランサムウェアを使う攻撃者は、基本的に明確な標的を定めず、例えばウイルスメーラーが窃取されたりとい

は、パソコンやサーバー上のデータを暗号化して使用不可にし、それらを復旧することと引き換えに身代金を支払うように促す脅迫メッセージを表示するウイルスの総称。これまで、ランサムウェアを使う攻撃者は、基本的に明確な標的を定めず、例えばウイルスメーラーが窃取されたりとい

中小企業の

セキュリティ対策

19年頃より、明確に標的を企業・組織に定め、身代金を支払わざるを得ないような状況をつくり出すため、「人手によるランサムウェア攻撃」と「二重の脅迫」と呼ばれる攻撃手法を取り入れる攻撃者が現れている。

この新たなランサムウェア攻撃については、海外で多数の企業の被害が報道されており、国内の企業でも被害が確認されている。1万台を超えるマシンが攻撃されたり、数TB（テラバイト）ものデータが窃取されたりとい

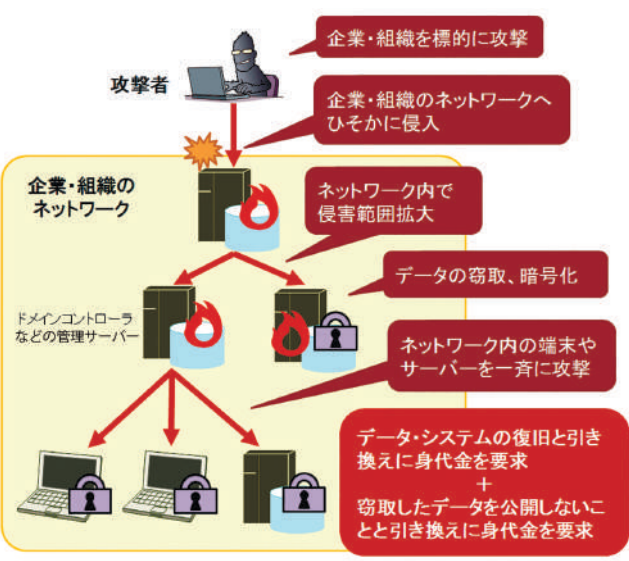
立っている、あらゆる「標的型サイバー攻撃」と同様に、攻撃者の進行を検知しにくく、企業が標的となり得る。経営層やIT・セキュリティを担当する部門において、事業の継続を脅かすような手法を駆使して、企業のネットワークへひそかに侵入する。そして、②二重の脅迫

この攻撃は、組織の規模の大小、扱っている情報の機密性などにかかわらず、ITシステムにより事業が成り立つている、あらゆる「標的型サイバー攻撃」と同様に、攻撃者の進行を検知しにくく、企業が標的となり得る。経営層やIT・セキュリティを担当する部門において、事業の継続を脅かすような手法を駆使して、企業のネットワークへひそかに侵入する。そして、②二重の脅迫

①人手によるランサムウェア攻撃
②二重の脅迫
この攻撃は、組織の規模の大小、扱っている情報の機密性などにかかわらず、ITシステムにより事業が成り立つている、あらゆる「標的型サイバー攻撃」と同様に、攻撃者の進行を検知しにくく、企業が標的となり得る。経営層やIT・セキュリティを担当する部門において、事業の継続を脅かすような手法を駆使して、企業のネットワークへひそかに侵入する。そして、②二重の脅迫

新たなランサムウェア攻撃

新たなランサムウェア攻撃のイメージ



二つの手口に確実に多層的な対策を
攻撃者が取り入れている、二つの新たな攻撃手口について説明する。
①人手によるランサムウェア攻撃
②二重の脅迫
この攻撃は、組織の規模の大小、扱っている情報の機密性などにかかわらず、ITシステムにより事業が成り立つている、あらゆる「標的型サイバー攻撃」と同様に、攻撃者の進行を検知しにくく、企業が標的となり得る。経営層やIT・セキュリティを担当する部門において、事業の継続を脅かすような手法を駆使して、企業のネットワークへひそかに侵入する。そして、②二重の脅迫

要がある。ウイルス、不正アクセス、脆弱性（ぜいじゃく）対策など、基本的な対策を、確実に適用することが重要である。手口や対策の詳細についてはIPAのウェブサイトで確認してほしい（QRコード参照）。（独立行政法人情報処理推進機構・江島将和）

